

「横浜・山北リフレッシュプログラム」 2014年報告書



福島子ども・こらっせ神奈川

後援

榎葉町 榎葉町教育委員会 山北町 山北町教育委員会
横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会 神奈川県
神奈川県教育委員会 (財)神奈川県高等学校教育会館

謝辞

私たちは福島の子どもたちを応援します 第3回「学習と保養」プログラム成功裏に終了できました

2011年3月11日の地震と津波によって起こった災害は、前に何度も同じことが起こっていて、わかっていたのに十分な対処ができず、人の力を信用しすぎて自然を軽く見た結果と言えます。それに引き続く原子力災害は、コントロールも後片付けもできない原子力を自分の手の内にあると考え違いをして利用してきたことに原因があります。政治家・役人・科学者などに考えてもらわなくてはなりません、政治を決める力のある私たちは、これらの災害が起きたことに関わって、しなくてはならないことがあります。このことへのまじめな取り組みなくして、これからの人に何と言われるか、合わせる顔がないことになってしまいます。

「福島子ども・こらっせ神奈川」の活動は、いろいろな考え・思いの中で福島に居住することを選択した親族と共に生活し様々なストレスを持つ小中学生の「健康と学習」の支援が重要であると考えています。

そんな思いで取り組む3回目の本年も、福島県楡葉町、楡葉町教育委員会、山北町、山北町教育委員会、横浜市子ども青少年局、横浜市教育委員会、神奈川県、神奈川県教育委員会、(財)神奈川県高等学校教育会館のご後援、多くの団体・市民のご支援をいただく中で実施することができました。ご支援・ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は、過去2回に参加した生徒を含めて小中高生徒24名の参加を得て実施しました。特筆できることとしては、過去に参加した生徒が高校生ボランティアとして参加したこと、大学生ボランティアが主体的に活動してくれたこと、横浜市上白根中学校生徒との交流が充実して行われたことなどです。学習、水遊び、花火、バーベキュー、キャンドルファイヤー、ゲーム、横浜散策など盛り沢山の企画の中で楽しい5日間を過ごしてもらいました。

アンケートで、「楽しかった」「面白かった」「勉強も進んだ」と言ってもらったことを糧に、一層充実した形で続けてゆかなくてはならないとの思いに駆られるものです。しかしスタッフは年年歳を重ねており、いつまで続けられるか心配です。でも私たちをはじめ多くの団体のご尽力で、私たちのような活動に国の予算が措置されました。残念ながら私たちの団体は条件が合わず、今回はこの適用を受けられませんでした。今後適用がなされるならば財政的負担は軽くできます。また若い大学生の力も大きくなってきています。皆様の引き続くご支援とこれらの力を結集して、この支援活動を続けてゆく方途を追求してゆきたいと思っています。参加した子どもたちの嬉しそうな顔を思い出すと、何としても続けなくてはとの思いです。

皆様のご支援ご協力に感謝し実施報告と御礼とします。ありがとうございました。

「福島子ども・こらっせ神奈川」代表 山際正道

プログラム

日 程 2014年8月6日(水)から10日(日)

場 所 山北町中川温泉丹沢荘(8月6日から8日)

横浜市野島青少年研修センター(8月8日から10日)

参加者 楡葉っ子など24名(小学生10名 中学生12名 高校生2名)

8月6日	いわき出発	オリエンテーション・遊び	ウエルカムパーティー
8月7日	学習	川遊び	バーベキュー・花火
8月8日	横浜に移動	横浜散策・横浜港遊覧	自由時間
8月9日	学習	上白根中生徒と交流	さよならパーティー・キャンドルファイヤー
8月10日	帰途	いわき到着	

8月6日 (水)

朝いわきを出発して、午後、やっと山北町「丹沢荘」に到着しました



「まってたよ!」「また、会えたね」



おやつをたべながら自己紹介



じゃんけん遊びの勝者はだれ?



みんなでとんだ「大縄」

ウェルカムパーティーでは湯川山北町長も楽しそう



「町民を代表して歓迎します。いい思い出を残してください。何度でも来てください」



「ごちそうがいっぱいならびました」

8月7日（木）

午前中は学習です



「わかりやすく教えてくださった」
「進まなかった宿題が進んだ」

教えてくださったのは山北の7人の先生

待ちに待った川遊び



「川遊びの達人」、増田先生が見守ってくれました



「水は冷たかったけれど楽しかった」
「岩が多くて歩くのがたいへん」



スイカ割り、やりたい人がたくさん
「もっと前、右、右、左、そこだ！」



お肉をいっぱい食べたバーベキュー
「自分で焼いたのでいっそうおいしかった」



川原で花火

8月8日 (金)



毎朝の朝練、頑張りました



丹沢荘のみなさん、お世話になりました！



横浜・みなとみらいで散策



おしゃれな「ケケ」で
バイキング



ランドマーク展望台
「ワー、きれい！」



「マリンシャトル」で横浜港クルーズ



「三菱みなとみらい技術館」
でロボットに変身

後半の2泊は「横浜市野島青少年研修センター」



入所式
スタッフのお話しです



「いただきます」「ごちそう
さま」は交代でした



食事はボランティアの方が
作っていただきました

8月9日 (土)

学習の後は上白根中と交流



「短い時間だったけれど仲良くなれてよかった」
「一緒に食べたアイスが美味しかった」



もう、「さよならパーティー」です



スライドで4日間をふりかえり



雨でキャンプファイヤーは中止
「でも、キャンドルファイヤーも楽しかった！」

みんなでピザ、春巻き、クッキーをつくりまーす



スタンプをしました
「せりふ、ちゃんと覚えていたよ!!」



エールマスターの荒木先生はますますパワーアップ



ハイライトは大学生の「ようかい体操第一だ!!!」

8月10日（日）

「さよなら」の時、直前に大粒の雨



「ここ（バスの窓）から飛び降りてもどりたい！」
「さようなら！」「さようなら、またね！」

3年を振り返り、そして今後は

●今年のプログラム

3年目を迎えた「こらっせ」（通称）のプログラムは、今年も多くの方々の賛同と協力により無事終了することができました。参加してくれた子どもたち24人を受け入れたのは、スタッフ15人、大学生ボランティア18人、学習ボランティア11人、20人以上の食事ボランティア。その他、野外プログラム・養護などで専門知識をもつ先生も関わっていただきました。榊葉町教育委員会、山北町役場、横浜市子ども青少年局のみなさまには、昨年にもましてのあたたかい心遣いをいただきました。そしてプログラムの財政を支えてくださった賛同人・団体のみなさまの総数は200近く、多くの方が2年、3年と賛同を継続してくださっています。

プログラムの内容は、まだまだ改善の余地はありますが、おおむね成功だったという評価です。3年間の経験で仕事の内容も明確になり、役割分担もスムーズにきました。今年に特筆されるのは、中学生が小学生をやさしく面倒をみていたことでした。また、大学生が企画の段階から関わり、実施にあたってはリーダーシップをとりプログラムを積極的に進めていました。どちらも自発的な行動で、その成長ぶりに驚かされるとともに、若さが頼もしく、眩しく感じました。

●交流の積み重ねが大事

今期はさまざまな意味で「交流」が深まりました。

昨年の11月、榊葉中学校の玉澤前校長先生から、3.11以後はじめての文化祭、「ゆずり葉祭」へのお招きを受け参加。プログラムを通して子どもたちが困難を乗り越えて成長してきた姿を実感しました。今年4月には、いわき市で子どもたちと大学生の「こらっせ交流会」を実施しました。交流会開催にあたっての事前学習会では、学生がそれぞれテーマを決めて報告しあい、福島、榊葉、原発、避難、文化などを学びました。現地では、榊葉小・中学校の仮設校舎や榊葉町民が住む仮設住宅を目にし、榊葉っ子が向き合っている現実の厳しさへの理解を深めました。

事務局は文科省が新たに制定した保養・交流の新制度を使えないかと、福島市、いわき市への訪問を重ねました。さまざまな関係団体、個人からお話を聞き、「帰還」問題に直面している榊葉町の厳しい現状も知ることになりました。そこで、今年のキックオフミーティングのテーマを「交流」と決め、福島県教職員組合の日野彰さんと長年にわたり伊達市との交流を実践してきた花岡崇一さんを講師に迎え、6月14日に開催しました。「福島を忘れないでほしい」、「交流は積み重ねが大切」、講師2人の忘れがたい言葉です。

●振り返りとこれから

2012年4月の結成の際に、私たちは3つの目標を決めました。①福島の特定の学校の子どもたちを招く、②行政との協力関係を構築し将来は「移動教室」を目指す、③少なくとも3年間は継続する。今年3年目を迎えたので、プログラム終了後に事務局は点検・評価をおこない、今後の方針を話し合いました。

①に関しては榊葉町教育委員会、小中学校からの支援をいただき、榊葉町の子どもたちを中心に招待することができました。②に関しては、山北町、横浜市からはさまざまな面で支援をいただき、とりわけ山北町は教師の派遣などの協力をしてくださいました。「移動教室」については、昨年5月から文科省に「移動教室」の制度化・予算化を他団体と共に要請し、ロビーをした結果、県外での「移動教室」の予算化が実現しました。「こらっせ」のプログラムも制度化の参考にしていただいたと聞いています。私たちは適用条件が合わずこの新制度を利用できませんでしたが、多数の他団体がこの制度を利用したそうです。

来期からの方針についても話し合いました。「帰還」問題を抱える榊葉町の困難な状況への理解を深めるとともに、次の3点を確認しました。①榊葉町の子どもたちを中心に招く、②行政と協力して「移動教室」の機運をつくる、③今後少なくとも2年間は継続する。

「移動教室」を実施するにあたっては、行政と民間グループの協力関係が不可欠なため経験を積み「モデル」をつくりながら、日常的な「交流」を細く長く続けていきたいと願っています。

「福島子ども・こらっせ神奈川」事務局長 遠野はるひ

子どもたちの感想



わたしはリフレッシュプログラムがとても楽しかったです。勉強のわからないところを先生に教えてもらった。ショッピングで買ったものは…本、キーホルダー。

みんなと協力、チームワークがためされたと思いました。参加者としては最後なので、来年来るときは高校生ボランティアとしてでたいと思います。みんなとまた会えるといいな。



久しぶりに会ったボランティアさんや初めて会うボランティアさんに出会えて幸せでした♡川遊びや花火、その他たくさんのイベントを考えてくださりありがとうございます。とっても楽しく過ごせました。朝練もこんなに楽しくできたのは初めてです！！これからたくさんのかべがあると思うけど頑張ります。皆に出会えてよかったです。

べんきょうがおわった。上白根中学校の人と仲良くなれてよかったです。またきたい。

今回も楽しく活動できたが、宿題は少ししか進まなかった。来年も来たいので、(部活がない)おぼん休みをいれてほしい。兄貴ともまたあえてうれしかった。

昨年に続き、上白根中学校のみなさんと交流しました。檜葉のことを学習して参加してくれました。上白根のお友達からの一言

去年はあまり深まらなかったけれど、今年は友達ができ、マンガや彼氏・彼女などの共通の話ができた。みんなで考えた、自己紹介、コントがうけてよかったです。小学生とじゃれあえて楽しかった。昼ごはん、アイスがおいしかった！もう少しいっしょにいたかった。

学生ボランティアの感想

※「こらっせ」プログラムでは子どもたちだけで参加するので、寝食を共にして子どもたちの世話をする学生ボランティアが大活躍。一昨年、昨年と継続して参加しているメンバーがリーダーとなっています。

●こらっせのプログラムが終わって1ヶ月が経ちます。プログラム中は「子どもたちに何かしてあげたい！」と必死でしたが終わってから考えると、逆に子どもたちから元気を貰っていたことに気付きました。来年の夏、彼らがどのように成長しているのかを見るのが楽しみであり、また成長した自分を彼らに見せるのも楽しみです。

●私は2泊3日の参加だったのですが、ものすごくあっという間に感じました。子どもたちと共に色々なプログラムを過ごせて楽しかったという思いもありますが、子どもたちと接するのは難しいなということもとても強く感じました。子どもたちの笑顔がたくさん見れて良かったです。素敵な体験をありがとうございました。

●初めての参加に不安もありましたが、子どもたちともすぐに打ち解け、楽しく3日間を過ごすことができました。スタッフの皆様が温かく迎えてくださったことにも大変感謝しております。この体験で学んだことを今後活かしていきます。本当にありがとうございました。

●活動意識の高い学生ボランティアのみなさんと、経験豊富な事務局の方々に囲まれて活動したこらっせのボランティアでは、とても刺激を受けました。子どもたちののびのびした表情を隣で感じられたり、接し方を先輩から学べたりと密度の濃い数日間でした。参加することが出来て本当に良かったです。

●昨年に引き続き今年も参加することができ、彼らの成長を肌で感じることができました。彼らにとって僕たちは短い間だけでも、お兄さん・お姉さんのような存在です。安全面に気を払いつつ、いかに楽しくのびのびとした時間が過ごせるかなどを考える5日間でした。僕自身の夏の大切な思い出です。

●2回目のこらっせが終わり、昨年度と比較すると、事務局やスタッフの皆様が目線にほんの少しだけですが、近づいた様に感じました。子供たちの安全、安心、夏の思い出作りのお手伝いができるよう、全力を尽くすのはもちろんのことですが、全体の流れや、学生ボランティアの動きなどについて考えながら活動できたと思うからです。また、賛同人の方々をはじめ、こらっせに関わってくださいました全ての方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。

●こらっせの保養プログラムは今年で早くも三度目の実施となり、内容的にもますます充実したものになってきました。福島の子どもたちとの毎年の交流は、それ自体とても楽しいものです。一年目、二年目にも参加した子どもたちの成長ぶりには目をみはり、そしてまた新しい友人との出会いがあります。こうしたささやかではあるけれども着実な積み重ねが、空文句ではないきずなをつくっていくのだと実感しています。

●3年目になり、かなりの経験が蓄積されて来ました。今年も無事に終わってホッとする反面、もっと出来たのではないかと考えています。子ども達の『来年も来たい!』という感想には、限られた時間の中でも新たな人間関係が作れたことにあると思います。事前の準備が、子ども達の満足度を高めていることがはっきり分かり、自分の勉強にもなりました。準備に奔走してくださった事務局の方々には、本当に感謝をしています。こらっせの支援がこれからも続いていく様に、私も細く長い支援で関わり続けていきたいです。

ボランティア・スタッフ紹介

学生ボランティア

粟ヶ窪瑠子／石渡博之／岩成銀河／大内万里／大賀航介／大町奈津美／大向春花／影浦あゆみ／川村知代／岸間千秋／窪田桃子／駒木根怜／清水雅大／中野友里／日高絵里菜／平戸萌子／山崎由里恵／横山満里奈

市民ボランティア

稲垣博美／オイドン／奥井康子／金澤あゆみ／鈴木江郎

事務局スタッフ

小山千鶴子／金子文夫／工藤妙子／遠野はるひ／中村信子／錦織順子／蜂谷隆／藤井あや子／山際正道／若林智子

(50音順)

榑葉町⇄山北町の手紙



神奈川県山北町長 湯川 裕司様

今年も、榑葉のこどもたちにとって、山北町を中心に過ごす楽しみな4泊5日がやってきました。

山北町長湯川様はじめ山北町民の皆様、そしてこらっせ神奈川や学生ボランティアの皆様、榑葉町のこどもたちのために、リフレッシュプログラムを用意し、温かく受け入れていただき厚く御礼申し上げます。

大震災から4年目に入り、今榑葉町は「早ければ27年の春以降に帰町する」という、松本町長からの表明があり、帰町に向けて歩みを進めております。

現在、いわき市内の仮設校舎や、他の学校で学んでいる榑葉のこどもたちにとっても、その保護者にとっても、ふるさとに戻るかどうかに悩む難しい局面を迎えつつあります。

そんな状況の中、こどもたちは、心温まる神奈川からの招待にうれしい気持ちいっぱいに参加しました。山北町の方々をはじめ、様々な交流や体験を通して、多くの皆様から支えられ、励まされていることを実感し、きっと有意義な時間を手に入れることでしょう…

よろしくお願い致します。お世話になります。

榑葉町教育長 矢内 賢太郎

追伸 ホームページで、昭和27年2月29日生まれと知りました。実は、私の生年月日は昭和27年3月1日です。1日違いの同級生、急に親近感が増しうれしくなりました。



榑葉っ子が縁で、榑葉町の矢内教育長と山北町の湯川町長との間でお手紙が交わされました。お二人の了解をえて掲載させていただきます。

謹啓、猛暑の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお慶びもうしあげます。

先日はわざわざご丁寧なお手紙を頂き、ありがとうございました。

昨日榑葉の子どもたちと一緒にウエルカムパーティーに参加させて頂き、楽しい時間を過ごさせて頂き、色々なお話も聞くことが出来て本当にありがとうございました。

私にとっても、毎年榑葉の子どもたちが山北に来ていただき、リフレッシュして頂けることを嬉しく思います。

今後はこれを機会に、教育長と親しくお付き合いさせていただき、ご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。

また、同封させていただきました、マフラータオルは私の後援会で作成しカードスタンドは町の木工作家の中根氏に依頼し、作成したものです。是非使って頂ければ幸いです。

結びに、榑葉町の益々の発展と先生のご健勝をお祈りし、お礼の挨拶とさせていただきます。



平成26年8月吉日

山北町長 湯川 裕司

ご支援・ご協力いただいた方々

神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県内広域水道事業団／神奈川県広域水道サービス（株）／神奈川ネットワーク運動／上白根中学校／餉餉ケケ／自治労神奈川県公営企業労働組合／市民自治をめざす神奈川の会／全水道関東地方本部／全水道横浜水道労働組合／丹沢荘／榎葉町教育委員会／榎葉町社会福祉協議会「空の家」／2010オリーブの木／福島県教職員組合／三菱みなとみらい技術館／山北町役場／山北町教育委員会／横浜市教職員組合／横浜市港湾局／横浜市野島青少年研修センター／ランドマークタワー・三菱地所グループ／W.Co森のはらっぱ／W.Coピピキッチン（50音順）

賛同団体

旭区女性団体連絡協議会／イマジン@せや／WE21ジャパンいそご／WE21ジャパンこうほく／WE21ジャパンさかえ／WE21ジャパン藤沢／MD女子会／2010オリーブの木／神奈川県教職員組合／神奈川県高等学校教職員組合／神奈川県広域水道サービス（株）／神奈川ネットワーク運動／神奈川ネットワーク運動・青葉／原発問題を考える瀬谷区民のつどい／国際ソロプチミスト横浜／相模鉄道労働組合／週刊金曜日を応援する会・神奈川／神高教シニア運動（株）すこやかコーポレーション／ストッププルトリウム神奈川連絡会／瀬谷旭まもる会／全水道神奈川支部／陶芸サークル創陶会／藤沢ローカルユニット会議／ふれあいフェスタ中川／ユニオンヨコスカ／W.Co花もめん／W.Co森のはらっぱ（50音順） 8月31日現在 28団体

個人賛同協力者

阿佐美茂樹／姉齒友子／新井義忠／荒川淳／荒木潤一／飯田雪／池田知代子／石下直子／石坂美重子／石塚光行／石渡博之／市川和子／伊藤大介／伊藤照子／伊藤巨子／稲垣博美／今井博／岩瀬恵子／岩本香苗／植田美紀子／上原博／内田ハル子／姥谷康一／梅田悦子／遠藤順民／及川譲詞／太田幸江／大森恵子／奥井康子／小笠原三枝子／小椋正夫／小山千鶴子／小山立子／鍵山賀子／加藤美恵子／金澤あゆみ／金子五久雄／金子文夫／鎌田広将／川平直子／北野正子／木村早苗／桐谷伊佐子／日下景子／工藤妙子／國井哲男／久保新一／倉田謙／黒澤知弘／洪玲珠／高力英夫／小海憲子／古座野郁子／児玉勇／児玉王子／五反田能子／五藤久枝／小宮市郎／是信吟美／坂井信夫／阪井依子／坂上美代子／坂巻フミエ／佐々木紀子／佐々木智子／笹野和恵／佐藤みつ／佐藤公彦／佐藤令子／三瓶勝吉／地代所達也／篠崎栄子／四宮みどり／柴田昌江／白川真澄／杉田恵子／杉山佳津江／鈴木江郎／高野克美／高橋厚子／高橋祥夫／武川定夫／竹田邦明／竹中麻美／立岡宏英／田沼時代／千村和司／塚本鉄男／露木順一／露木淳子／津波古勝子／鉄地河原清美／月野和陽右／土井昌治／遠野はるひ／戸田真由美／中川登志男／中島まり英／永瀬裕子／中西綾子／永峯文男／中村潔／中村信子／中山雅子／西井弘／西川豊子／錦織順子／新川順子／二宮公子／野口いづみ／箱守初代／長谷川けい子／蜂谷隆／原ヨシ子／東祐司／菱川実江子／日野彰／府川和代／福川世志明／福島健太郎／福島玲子／藤井あや子／藤島政彦／藤見睦彦／藤本泰成／古河和男／古川文乃／風呂橋修／星康夫／本庄サクラ／本間尚子／前田正裕／巻山美和子／増田文夫／又賀道子／松崎茂雄／松原ノリ子／松本明子／三輪純子／向田映子／武藤一羊／村田弘／村田由美子／森信壽／森幸子／森下育代／森谷牧子／諸橋知子／八島忠義／矢島邦典／矢島清子／山浦健太／山浦優太／山川節子／山際正道／山城保男／山城恵子／山田勇／山中悦子／山西道子／山根徹也／山本明德／吉川正人／吉沢洋子／吉田哲四郎／吉田明／若林智子／渡辺正子（50音順）
8月31日現在 168名

「横浜・山北リフレッシュプログラム」決算報告（2014年8月31日現在）

収入の部		支出の部	
会費収入	100,000	食費・宿泊費(丹沢荘 野島研修センター)	842,819
寄附金収入	1,536,950	交通費(送迎バス代、ボランティア交通費)	513,237
参加費収入	66,000	保険料(プログラム保険)	42,000
雑収入(イベント)	6,000	イベント及びおやつ代	48,344
前年度繰越金	1,067,820	事前交流、調査、渉外費	395,837
		運営費(会議会場費)	38,304
		”(通信費、事務費、広報費)	140,544
		雑費	15,919
収入合計	2,776,770	支出合計	2,037,004
		後期活動及び次年度活動用繰越金	739,766



●ご支援をお待ちしています

賛同して下さった方々には、報告書・お知らせをお届けしますので、振り込み用紙にはよろしければメールアドレス・住所の明記をお願いします。

賛同金：個人一口3,000円 団体一口10,000円

郵便振替 口座名称：福島子ども・こらっせ神奈川

口座番号：00270-7-101155

「横浜・山北リフレッシュプログラム」2014年報告書

発行日 2014年10月10日

編集・発行 「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL: 045-353-9008 FAX: 045-353-9998

Email: info@korasse-kanagawa.org

写真/蜂谷隆他 表紙/メリノ 制作/事務局